赤尾の“現場で勝てる”Visual Basic 6.0

Visual Basic 6.0ユーザーに贈る
イチから出直し超基本プログラミング

第8回

イメージビューワで練習する応用技 その1

赤尾 猫太 *AKAO, Nekota*

「モジュール／カスタムコントロールの利用」「サブルーチン化のメリット」「複数フォームの終了処理」

はじめに

そろそろプログラミングというものがつかめてきましたか？ つかめてきたという方は復習として、まだつかめないという方は練習としてこの連載にお付き合いください。

今回からは、イメージビューワを作成します。Visual Basic（以下VB）のプログラミングは、いろいろなフォームや標準モジュールを作成したり、カスタムコントロールを使ったりすることで、高度なプログラムを比較的簡単に作成することができます。今回は、いろいろなフォームや標準モジュールをプロジェクトに追加してプログラムを作成します。

本稿で前提となるもの

OS　Windows 98以上

開発環境　Visual Basic 5.0/6.0

初級　中級　上級

この記事で解説したサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DMAG¥AKAOフォルダ以下に収録しています

¥VIEWER1：今回作成したイメージビューワ

プログラムを構成するファイル

まずはおさらいとして、VBプログラムの元となるソースファイルを確認してみましょう。まず最初に「.frm」という拡張子をもつファイルです。これは、フォームに関する情報をもつファイルです。.frmファイルはグラフィカルなフォームの情報すべてを、文字として含んでいます。一度.frmファイルをメモ帳などで開いてみましょう。結構よい勉強になるはずです。

しかし、フォーム上に貼った画像やフォームに指定したアイコンは文字では表現できません。これら文字以外の情報は、「.frx」という拡張子をもつファイルに含まれているのです。この.frxファイルは、.frmファイルと1対1で存在しますが、文字だけで表現しきれるフォームの場合は.frmファイルしか存在しません。

では、これら以外にどんなファイルが存在するのでしょうか？ まず、どのようなものによってプログラムが構成されているかを示す「.vbp」という拡張子をもったファイルが存在します。この他、フォームをもたずにコード情報だけの「.bas」という拡張子をもつファイルなどが存在します。

このように、さまざまなファイルからVBのプログラムは構成されており、コンパイル作業によってひとつの

図1：フォームモジュールの追加

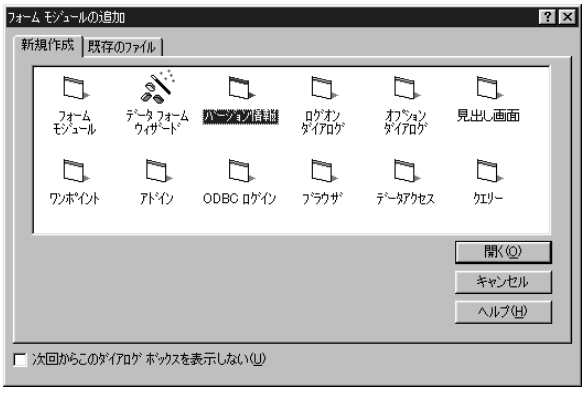
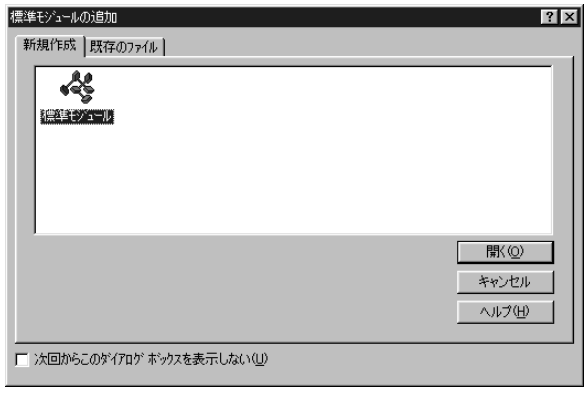


図2：標準モジュールの追加



「.exe」として作成されるのです。

今回は、複数のフォームや標準モジュール（前述した「.bas」という拡張子をもつファイル）、外部機能の塊であるカスタムコントロール（OCX）などを追加してプログラムを作成します。

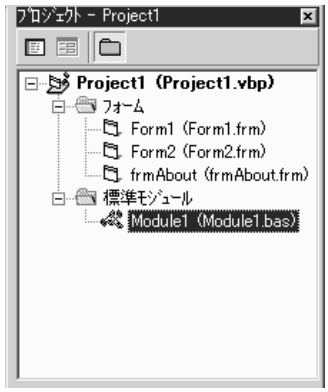
プログラム作成の準備

ではVBを起動して、新規のプロジェクトを作成してください。「新しいプロジェクト」ダイアログで［標準EXE］を選択します。

デザイン画面が開いたら、まずフォームモジュールを追加します。フォームモジュールの追加は、VBのメインメニューから、［プロジェクト］-［フォームモジュールの追加］を選択します。すると、図1のようなダイアログが表示されますので、作成するフォームモジュールに最適なものを選択します。まったく新しく作成するならば［フォームモジュール］を選択しますし、ベースとなるフォームを流用し、変更して使うのであれば、それに合ったフォームを選択します。今回は、単純なフォームである「フォームモジュール」（Form2.frm）と「バージョン情報」（frmAbout.frm）を追加します。

続いて、標準モジュール（Module1.bas）も追加します。標準モジュールの追加は、VBのメインメニューから［プロジェクト］-［標準モジュールの追加］を選択します（図2）。するとプロジェクトエクスプローラは図3のような表示になります。

図3：モジュールが追加されたプロジェクトエクスプローラ



土台となるフォーム

まずは、追加したバージョン情報のフォームである「frmAbout.frm」を開いてみましょう。開くとわかるように、よく使うであろう形でかなりの部分があらかじめ作成されています（図4）。今後のプログラム作成のため

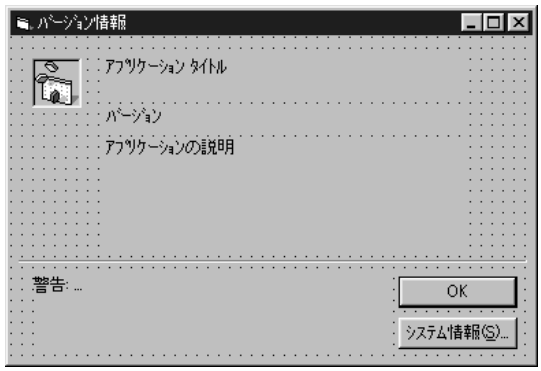



図4：バージョン情報フォーム